

性同一性障害 Q&A

クリスチャンとして考える

第1部 性同一性障害って何？

- Q 1 本来に「性を変えたい」と思っている人がいるのですか？ 11
- Q 2 「心の性と体の性が違う」という状態を、なんと言いますか？ 12
- Q 3 性同一性障害と同性愛とは違うんですか？ 13
- Q 4 一体どんな病気なんですか？ 14
- Q 5 スポーツの世界でも、性転換した選手を認める方向と聞きましたが本当ですか？ 15
- Q 6 性を変えた人の体験談は出版されていますか？ 16
- Q 7 「心の性と体の性が違う」という訴えは何歳くらいの人に多いんですか？ 17
- Q 8 性同一性障害が、映画やテレビなどで取り上げられたことはありますか？ 18
- Q 9 当事者は、自分たちをどう呼ぶんですか？ 19

- Q 10 日常生活で困ることは何かありますか？ 20
- Q 11 性同一性障害に悩む人は、どのくらいいますか？ 21
- Q 12 これまで日本では性を変える手術は行われなかったのですか？ 22
- Q 13 この障害の原因は何ですか？ 23
- Q 14 性同一性障害に似た病気は何かありますか？ 24
- Q 15 性が決まることはそんなに難しいことなですか？ 26
- Q 16 診断や治療はどのようになされているのですか？ 27
- Q 17 手術で体造りを変えるよりも、心を変える方がいいのではありませんか？ 29
- Q 18 治療費はいくらぐらいかかるのですか？ 31
- Q 19 手術の成功率はどのくらいですか？ 32
- Q 20 性別適合手術を受けた人の、その後の健康状態はどうなのですか？ 33
- Q 21 性を転換した人は、戸籍上の性も変えられるのですか？ 34
- Q 22 結婚していて、性を変えることを選んだ人の結婚生活は、どうなりますか？ 36

第2部 クリスチャンとしてどう考える？

- Q 1 この障害についてクリスチャンが心に留めるべきことは何ですか？ 38
- Q 2 性同一性障害が公の問題として出現したことは、この時代の風潮と何か関わりがあるのでしょうか？ 41
- Q 3 聖書の中に、生殖器を変えることに関する箇所がありますか？ 43
- Q 4 異性の服を身に着けることについてはどうですか？ 45
- Q 5 聖書から「イエスさまも性転換を許している」と主張する人がいますが？ 46
- Q 6 性同一性障害だという方が教会に見えたとき、どのように接したらいいのですか？ 48
- Q 7 ホルモン療法や手術については、どう考えたらよいでしょうか？ 50
- Q 8 諸外国の事情はどのようなのですか？ 52
- Q 9 精神科医が、一度下した診断や治療法を後になって取り消したりすることがあるのですか？ 57
- Q 10 性同一性障害と診断された人の中でイエス・キリストを信じる人はいますか？ 59
- Q 11 信仰告白しても、まだ異性装をやめられなかったり、本来の性に戻らないということは

ありませんか？ 63

Q 12 G I Dが癒されていくには、どんなステップを通るのでしょうか？ 65

Q 13 では、イエス・キリストを信じて祈っていれば、この障害の苦しみは自然に癒されていくのでしょうか？ 67

Q 14 G I D当事者の多くは幼い頃から自分の性を嫌ったと聞きましたが本当ですか？ 71

Q 15 子どもが性別違和感を持たないために、親はどうしたらいいのですか？ 73

Q 16 「男らしい」「女らしい」とは、どういうことですか。 76

おわりに 80

【付録】英国福音同盟編 Transsexualityの結論（要約） 83

引用聖句 86

参考資料

巻末注 90

あなたは、「性を変えたい」という人に会ったことがありますか？

一九九八年十月16日、埼玉医科大学において、わが国で初めて「女性を男性にする」手術が公に治療として行われ、一躍「性を変えたい」という人々がメディアの注目を浴びました。以来、「性同一性障害に悩む患者たちに救いの手を」という声が上がりに始め、クリスチャンもその流れに圧倒されている感じがします。

米国では、一九五二年に元米兵のジョージ・ヨルゲンセン氏が、デンマークの首都コペンハーゲンで、男性から女性へ転換する手術を受け、名前もクリスティン・ヨルゲンセンと変え、世の中を驚かせました。自叙伝では、「自然がまちがいを犯したので、私はそれを修正した」と言っています。

(注1)

ヨーロッパでは、一九九八年11月、男性の村長が女性として引き続き働きたいと希望しましたが、住民は拒みました。ドイツのザクセン・アンハルト州のクウエンレンドルフという村のノルベルト・リントナー氏(当時40歳)が、村民投票でリコールされたのです。女装をして化粧をし、名前もノルベルトからミヒャエラに変えたのですが、願いはかきませんでした。(注2)

日本では、一九七三年にわざわざモロッコにまで出かけて男性から女性に変わる手術を受けた芸人カルーセル麻紀(本名を平原徹男から平原麻紀と改名)がいます。

二〇〇三年4月の東京都世田谷区議選では、心とからだの性が一致していないことを公表した上川あやさん(当時35歳)が当選しました。戸籍上は男性ですが、女性として議員登録をしました。(注3) 社会的な立場のある人がこのような行動をとると、その影響は無視できません。「性を変えた」という人たちが、団結して権利を主張し、法律さえ改正されました。

また、「生まれつきの性と本来の性が違う」と言う人が教会を訪ねて来ることがあります。「神がはじめから人を男と女に造られた」と信じるクリスチャンは、このような現象をどのように捉えたいのでしょうか。

日本では、この問題について取り上げたキリスト教書籍は見当たりません。ファミリー・フォーラム・ジャパンでは、関心のある方々の疑問に答え、クリスチャンとしてどう考えるべきか、そのための資料の必要を感じました。私たちは医師でもカウンセラーでもありませんが、家庭問題に取り組むクリスチャンの団体として、家庭の根底を揺るがすような社会の動きを見過ごしにはできません。それで、言わばジャーナリストの視点で、一般メディアでは報道されない事実を掘り起こし、レポートしたのが本書です。

第1部の「性同一性障害って何?」は、主に日本の一般医療界の見解で、これは例えて言えばコインの表側にすぎません。

第2部の「クリスチャンとしてどう考える?」は、クリスチャンとしての視点に加えて、他の国々

でこの障害がどのように捉えられているかが報告されています。第1部と第2部を合わせて、はじめて全体像が見えてくるように構成しました。

医学用語の中にはなじみが薄いものもあるかも知れませんが、ぜひ最後まで読み続けてください。難しい部分とはばし読みして下さって結構です。最後には、元当事者でクリスチャンになった方々の証しもいくつかのっています。

性同一性障害の当事者が多く、研究が進んでいるイギリスの英国福音同盟は、二〇〇〇年に「Transsexuality」を出版しました。その要約が、本書の末尾にあります。同じくイギリスの Youth With A Mission の一部である Parakaleo Ministry は、性同一性障害問題専用のウェブサイトを持っています。（「パラカレオ」とは、慰め、励ましを意味するギリシヤ語です。）

米国にも、聖書のまた心理学的にバランスの取れた立場から、性同一性障害者を助けることを目的とした Reality Resources という団体があります。英語を理解する方々にはお勧めです。

本書が、この障害の本当の姿に迫り、当事者の方々に福音をお届けし、その回復に役立ち、同時に家庭の基盤を確かなものにするができるなら、これほどうれしいことはありません。

「略称について」

本書では、長い名称の繰り返しを避けて読みやすくするため、略称を使用することがあります。代表的なものは以下の四つです。

- G I D (Gender Identity Disorder) 性同一性障害という症状、またはその当事者
- M T F (Male to Female) 男性から女性に変わりたい人、または変わった人
- F T M (Female to Male) 女性から男性に変わりたい人、または変わった人
- S R S (Sex Reassignment Surgery) 「性転換手術」のことで、正式名は「性別適合手術」

第1部 性同一性障害って何？

Q1 本当に「性を変えたい」と思っている人がいるのですか？

そう感じるのは無理ありません。最近の芸能人には、男性なのに女性の服装や言葉を使って人気を博している方たちが何人もいます。

でも、趣味や好みではなく、真剣に自分の性別に悩んで生き方を捜す人がいるのも事実です。「神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます」(第一テモテ2章4節)とあるように、「性を変えたい」という人も神さまの愛の対象であることに違いありません。

最近この問題に関心を持つ人は、教会の中にも珍しくなくなってきました。メディアに刺激される部分もありますが、私たちがこの問題を取り上げるのは、自分の性別に違和感を持っている、また治療を受けているという方に実際に出会ったり、相談を受けたりするからです。

私たちの常識を根底から揺るがすような話なので、めまいを覚えるかもしれませんが、最後まで読んで下さるならば、きっと確かな土台を見出すことと思います。

Q2 「心の性と体の性が違う」という状態を、なんと言いますか？

性同一性障害です。英語では、Transsexuality (性転換症)、Gender Identity Disorder (性同一性障害)、またはGender Dysphoria (性別違和感) などと言います。(注4)

米国で性別違和感を持つ人々に診断と治療の場を提供し始めたのは、ハリー・ベンジャミン医師で、一九五〇年代のことです。(注5) 「性同一性」または「性自認」(自分の性をどう自覚しているか)という概念を一般化したのは、心理学者ジョン・マナー氏です。マナー氏は、一九六六年に米国で初めてジェンダー・アイデンティティー・クリニックをジョンズ・ホプキンス大学に開設しました。(マナー氏と同クリニックについては、第2部 Q8に後日談が出て来ます。)

日本語の「性同一性障害」とは、Gender Identity Disorderの翻訳です。一時は、Transsexualityの訳語としての「変性症」または「性転換症」と呼ばれることもありましたが、今は「性同一性障害」で統一されています。ちょっと長くて覚えにくいので、本書ではGID(ジーアイディー)とも呼びます。

ひとまず名前が決まると、一般的には病気として確定してしまったかの印象を持ってしまいますが、この病気の診断と治療法には様々な異論があることを心に留めておいて下さい。

Q3 性同一性障害と同性愛とは違うんですか？

性意識の混乱という意味ではよく似ていますが、この二つは違います。

比較すると、同性愛者は、普通は自分の持つて生まれた性そのものを疑うことはありません。ただ、性的な関心が同性に向かいます。

一方、性同一性障害者は、「持つて生まれた性と自分の頭で感じる性が異なっている」と訴えます。体はどう見ても男なのに、心は女である（または、体は女なのに心は男）と本人が感じる状態です。体と心の性が一致せず、心の性にあつた生活をしたと思うこと、次の段階としてホルモン療法によつて反対の性に生理的に変わることを、そしてその症状が甚だしい場合には、外科的手術によつて体の性を心の性に一致させたいと願う状態であると一般的には理解されています。

また、性別違和感はないが、異性の服装を身につけるだけの人々がおり、異性装者と呼ばれます。

Q 4 一体どんな病気なんですか？

病気の苦しみは、本人でなければ分かりませんが、当事者はよく

「男の自分が、女の体に閉じ込められていると感じる」

「女の私が、男の体に閉じ込められていると感じる」

などと言います。他人には病気とは見えないのに、本人は「堪え難い苦しみを感じる」とのことです。日本精神神経学会は、次のように説明します。

・自らの性別に対して、強い不快感と嫌悪感を持つ。ひどい場合は、乳房やペニス・精巣を傷ついたり、女性は声帯を傷つけてまで太い声を望むこともある。

・反対の性に対して、強く持続的な同一感を持つ。逆の性の服装を身につけそれらしい言動をして、その性の身体的特徴をも自分のものとしたいと願う。

・しぐさや身のこなしや言葉遣い等で、反対の性役割を行うか、行いたいと望む。(注6)

一時的な感情ではなく、一貫して続くことが特徴です。甚だしい場合は自殺する人さえいるそうです。一九九八年10月に埼玉医大で手術を受けた中原圭一さん(仮名)は自分を女と思ったことはなく、中学生時代に変声しないのを嫌い、のどに焼き鳥用の金串を刺して低い声に変え、胸をペンチでつぶすことさえしました。自分の体をもて余し生きる希望も失ったそうです。(注7)

Q5 スポーツの世界でも、性転換した選手を認める方向と聞きましたが本当ですか？

その通りです。一九七〇年代、米国で男性リチャード・ラスキンが性転換して女性テニス選手レニー・リチャーズと名乗り、「術後何年も経過し、かつて男性だった有利性はない」として大会に出場する権利を得ましたが、クリス・エバート・ロイドに破れました。（後日談が、第2部 Q8 にあります）最近では、男性から女性に性転換したマウンテンバイクのミシェル・ダマレスク（カナダ）が世界選手権に出場。二〇〇四年3月には豪州のプロゴルフ界でも性転換をした選手が誕生しているそうです。（注8）

日本でも、女子競艇の安藤千夏選手は二〇〇二年3月に、性同一性障害であることを公表し名前も大将として選手登録されました。競艇は元来、男女の体格の差が成績に反映されない競技なので、性の変更によるデメリットはほとんどなかったといえます。なお、同選手は体調不良を理由に、二〇〇五年9月に競技生活を引退しました。

国際オリンピック委員会は二〇〇四年5月に、性別適合手術を受けた選手の五輪参加に備え、新たな資格規定を設けました。手術を受けており、法的に新しい性となり、適切なホルモン治療を受けて手術後2年間の経過しているなら、男女どちらの性にも変わった選手にも出場権を認めるそうです。新しい規定はアテネ五輪から適用されています。この規定の適用を受ける選手が現実にどれくらいいるかは分かりません。（注9）

Q 6 性を変えた人の体験談は出版されていますか？

持つて生まれた性を受け入れられない人々、そしてそれを公表（カミングアウト）する人々が、メディアの関心を引くようになりました。虎井まさ衛氏は、米国で女性から男性になる手術を受けた自称作家ですが、この問題についての著書が多く、性同一性障害者の人権擁護運動ではスポークスマンのな役割をつとめています。著書は「女から男になったワタシ」「男の戸籍を下さい」その他多数あります。「FTM日本」というミニコミ紙を発行し、ウェブサイトもあります。（注10）安藤大將さんにも、著書「スカートをはいた少年 こうして私はボクになった」（ブックマン社）があります。世田谷区議の上川あやさんの「変えてゆく勇氣」（岩波新書）もあります。

虎井さんや元競艇選手の安藤さんは手術も受けて女から男になったケースですが、佐倉智美さんという方は、結婚もし生物学的には男性ですが、33歳の時に女性として生きたいと決意し、会社も退職して、あえてそれまでとは違う道を歩き始めました。彼（彼女）は、ホルモン療法も、手術も受けてはいません。女装するときもあり、本来の男性として生活するときもあるという「コウモリ的」生活だと認めています。自著「性同一性障害はオモシロイ」「女が少年だったころ」などに一部始終が紹介され、本人のウェブサイトに写真も公開されています。

米国に、53歳で女性になったディアドラ・N・マクロスキーというハーバード大学卒業の大学教授がいます。著書「性転換」（文春文庫）には、女装趣味から発展して、ホルモン注射、声帯の改造、

ひいては生殖器の手術にまで至った経緯がくわしく紹介されています。現在、女性経済学者として社会生活を営んでいます。これらの書物はどれも、当事者の育ちや今の気持ちを理解するには役立ちますが、興味本位で読むことはお勧めしません。

また、日本でこの治療の先鞭を付けた埼玉医大で同手術を執刀した原科孝雄医師へのインタビューが、立花隆著「サイエンス・ミレニアム」(中公文庫 二〇〇二年)の中に「性転換最前線を行く」と題して掲載されています。なお、同医大では、原科教授の定年退職を機に、二〇〇七年5月以降は、この手術を休止すると発表し、同年10月までに予約されていた約60人の手術はキャンセルされました。(同年5月13日 朝日新聞)

Q7 「心の性と体の性が違う」という訴えは何歳くらいの人に多いんですか？

これは、日本だけのデータですが、埼玉医科大学医療センター形成外科ジエンダークリニックを一九九二年〜九八年までに受診した182名の年齢を見ますと、20代以下が70%、30代を含めると全体の90%を占めます。性別違和感を覚えるのが人格の固まる思春期であるのは、納得がいきます。しかし、まれには中年になってから違和感を覚える人もいます。(注11)